

幡多希望の家

◆◆◆ No.16 ◆◆◆

医療型障害児入所施設
療養介護事業
幡多希望の家

TEL (0880) 66-2212 FAX (0880) 66-2215
HP ▶ <http://www.hatakibou.jp/>
Mail ▶ hataki01@mb.gallery.ne.jp
＜発行所＞〒788-0782 高知県宿毛市平田町中山867番地
＜発行日＞2020年 10月16日



弘法大師が四国を巡って修行をしたという八十八のお寺を巡礼する人がお遍路さんです。「同行二人」と書いた菅笠を被り、「南無大師遍照金剛」と書かれた白衣を着て草鞋を履き、手甲脚絆に身を固め、金剛杖や頭陀袋、数珠などを持つのがお遍路さんの正装です。巡礼の正式名は「四国霊場八十八番札所巡り」です。鳴門の一番札所「霊山寺」に始まり、四国を時計回りに回って、讃岐の八十八番札所「大窪寺」に終わります。私の郷里は、黒潮町の海岸沿いにある小さな村で、お遍路さんの通り道になっています。夏の日も、冬の日も、雨の日も、ホコリで汚れた白衣を着て、黙々と歩いていくお遍路さんの姿は、子どもの頃の日常の風景でした。



お遍路さん 施設長便り

【新約聖書…使徒言行録(7章58～60節)】人々は大声で叫びながら、ステパノを市外に引き出して、石で打った。彼らがステパノに石を投げつけている間、ステパノは祈り続けて言った、「主イエスよ、わたしの霊(たましい)をお受け下さい。主よ、どうぞ、この罪を彼らに負わせなさい下さい。」こう言って、彼は眠りについた。

「白衣の人」と聞くと、多くの方は医師や看護師などの医療従事者を想像されるのではないのでしょうか。子供の頃に私が持った「白衣の人」のイメージは、「お遍路さん」の姿でした。もっとも、お遍路さんの白衣は「はくえ」と言います。「はくえ」は「白装束」とも呼ばれ、お遍路さんが行き倒れとなった場合、そのまま葬られてもよい「死装束」でもありました。道路事情の悪い昔の四国巡礼は命がけの旅であったと想像されます。

弘法大師が四国を巡って修行をしたという八十八のお寺を巡礼する人がお遍路さんです。「同行二人」と書いた菅笠を被り、「南無大師遍照金剛」と書かれた白衣を着て草鞋を履き、手甲脚絆に身を固め、金剛杖や頭陀袋、数珠などを持つのがお遍路さんの正装です。巡礼の正式名は「四国霊場八十八番札所巡り」です。鳴門の一番札所「霊山寺」に始まり、四国を時計回りに回って、讃岐の八十八番札所「大窪寺」に終わります。私の郷里は、黒潮町の海岸沿いにある小さな村で、お遍路さんの通り道になっています。夏の日も、冬の日も、雨の日も、ホコリで汚れた白衣を着て、黙々と歩いていくお遍路さんの姿は、子どもの頃の日常の風景でした。



◎当施設の近隣に39番札所「延光寺」があります。



「病氣回復」や「家族の供養」、「家庭問題解決」等であり、大きな心の苦しみや悲しみ



そのようなお遍路さんに対して、子どもの我々は、怖さ半分遊び半分で、卑しめた囃子言葉を投げかけていました。「遍路乞々(コツコツ)、まだ麦や熟れんぞ、熟れたちやらんぞ、スズメの方が先に食べ。」その意味するところは、「乞食の乞食の遍路さん。まだ麦は熟れていません。もし熟れていても、あんたらにはやるものか。スズメの方にやった方がまだまだ。」です。そしてときに我々は、お遍路さんに小石を投げつけたりもししていました。お遍路さんが怒ると、悪ガキどもはワツと逃げ散っていきました。

小学4年生の夏に、従兄と筏遊びをしていて、バランスを崩し川に落ちてしまいました。二人ともカッパであり、難なく這い上がったのですが、その河原には一人のお遍路さんが火を焚いて夕食の準備をしていました。黙って傍を通り過ぎようとした我々を、お遍路さんは優しく招いて、濡れた服を脱がせ、身体を拭くタオルを貸してくれました。そして火で身体と服とを乾かしながら、彼は色々な話をしてくれました。その中で一つだけ覚えていた言葉があります。それは「お遍路さんも、皆と変わらない同じ人間だから、怖がらなくても良い」という言葉です。今なお覚えているということは、私に強いインパクトを与えた言葉であったと思います。

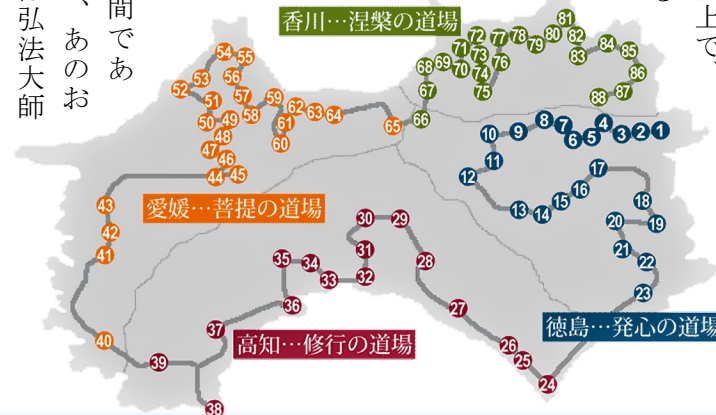
この科学万能の時代においては、お遍路さんの巡礼の目的として「自分自身の発見」や「心の平安」を挙げる人も多く聞きます。しかし昔のお遍路さんのそれはもっと素朴で、「病氣回復」や「家族の供養」、「家庭問題解決」等であり、大きな心の苦しみや悲しみ

がその基にありました。しかし当時の私には、お遍路さんの心の中にあるそれらを知る由もありませんでした。かつてテレビや新聞紙上で、ホームレスの人に対する若者の暴走が報道されていた。その暴走を苦々しく思っていた私自身も、昔にそれと同じ行動をとっていたことになりました。今になり、どれだけ多くのお遍路さんに辛く悲しい思いをさせたかと、非常に恥ずかしく思い出します。

「全ての人は同じ人間である」ことを教えてくれた、あのお遍路さんは、仏教的には弘法大師であり、キリスト教的にはイエスキリストであったのかもしれない。そして私は、石で打ち殺されながらも、投石する私のために祈るステパノの姿に、多くのお遍路さんの姿が重なって見えます。

短い一度きりの出会いでしたが、あのお遍路さんは、私の中にある彼らへの偏見を取り去ってくれました。また自分の中にある罪を認識させ、将来私がキリスト者となる一つのきっかけを作ってくれました。六十年以上前のことであり、そのお遍路さんは既に亡くなっていると思います。しかし私は、私をキリスト教信仰へと導いてくれたあのお遍路さんに心より感謝しています。

施設長 島田 誠一



編集後記

今回の新型コロナウイルス感染症の影響で、施設内にも色々な制限が設けられたことを受け、今年度から病棟は、今までの全体の活動から、各部屋ごとに日中活動を行うようになりました。いつもと違ってみんなでの取り組みや行事は中止になりましたが、職員も色々と工夫をして利用者の方々が楽しめる取り組みを継続しています。新型コロナウイルス感染症の流行がいつまで続くものかは分かりませんが、今後も利用者の方々やご家族の方々が安心して楽しめる取り組みを考えていければと思います。

職員コラム ～あんなこと、こんなこと～

私の気分転換のひとつでもある山へのキャンプの恐ろしい体験エピソードをひとつ・・・

沢山の荷物やお酒、食料(秋・春のキャンプなのでストーブも持って行きます。)を車へ積み込みいざ山へ・・・

【道中は、着いてから一番に飲むビールや、BBQで焼くお肉の事を考えながら、日頃の事をすっかり忘れてワクワク気分で行きます。】

支援科では『雨女』で有名な私・・・(山に行くとき風邪をひくといつも言われます笑)この日は天気にも恵まれ、美味しいお酒とお肉を堪能し、テントの中で楽しい時を過ごしていました。が・・・ポツポツと雪が降ってきて「ワクワク」「雪で遊べるネ」などと深酒をしていると、横殴りの雪となり、ついにはテントがミシミシと潰れるような音がしてきました。大丈夫かな?と、さすがに不安に思っていると、「大丈夫ですか?避難してください。道が通れなくなります。」と道路公団の方が助けに来てくれ、テントや道具もそのままに、慌てて下山した事でした。(2日後にテントや道具は取りに行きました。)

あの時は、高知県でまさかの雪で遭難?という、とても恐ろしい体験でした。(なかなか体験できませんよね。)

こんな思いをしてもやっぱり山のキャンプが大好きです。

コロナ禍でなかなか思うように行動できませんが、みなさんも山キャンプどうですか?とても良い気分転換になりますよ!

生活支援科長



お花見



さくらの花見をしました。
ソーシャルディスタンスを
保ちつつ・・・



お茶会

お茶会
おいしいケーキと好きな飲み物を
みんなでいただきました。



魚つし



何が釣れたかな？



病棟での 楽しい取り組み

七夕



七夕に
みんなで願いを
込めて・・・☆彡



作品作り

さくらの木をみんなで作りました。



スクリーンアート



窓へ貼るときれいに透けて見えます。



ハーバリウム作り

きれいに出来ました。



かき氷



かき氷を作って
みんなでおしく
いただきました。